

接頭辞 RE の本質的機能

山本香理

0. はじめに

接頭辞 RE⁽¹⁾の本質的機能は「反復 (itération)」を表すことであると従来指摘されることが多かった⁽²⁾。そして、動詞に RE を付加する場合は、何らかの事態が前提となっており、その事態とは既に生じた事態であるとされてきた。例えば、(1) のような倒れた主体が「身を起こす」ことを表す *relever* や対象を「元の位置に戻す」ことを表す *remettre* の RE は「元の状態」の反復であると説明されている：

- (1) a. Je t'ai vu tomber et te **relever** en serrant les dents, (. . .).

(LEVY, M. 2003, *Si c'était vrai . . .*)

- b. Il referma le journal et le **remit** à l'endroit précis où il l'avait trouvé.

ところが、RE が付加された様々な動詞の使用例を見ると、従来のような時間的側面からの記述は不十分であることに気付く。例えば、表されているのが「元の状態」でない (2) の *relever* や *remettre* の RE の働きについてはどう考えればよいのだろうか。

- (2) a. Un vent du nord s'était engouffré dans la baie, amenant avec lui une pluie fine et ciselante, il faisait un froid de loup. Il **releva** le col de son manteau sur sa nuque. (LEVY, M. 2003, *Si c'était vrai . . .*)

- b. À la porte de l'hôtel, elle **remit** le sac au portier avec une liasse de francs suisses. (RICE, A. 1995, *L'Heure des sorcières*)

本研究の目的は、接頭辞 RE の機能を再検討し、その本質的機能を解明することである。そのために、まず第 1 章で、観念的側面から RE の本質的機能の

解明を試みている Franckel (1989, 1997) を取り上げる。次に第 2 章で事例研究を行い、第 1 章で見た研究の妥当性を検証しつつ、RE の本質的機能を検討する。

1. 先行研究

Franckel (1989, 1997) は、動詞の表す事行や事行によって生じる結果状態を P とし、RE を付加したそれらを RE-P と表している。

Franckel は、動詞に RE を付加する場合、発話者は二つの操作を行うとしている。まず、第一の操作で、P を時間軸に定位し、P の量・質的限定を行う。そして、第二の操作では、この第一の操作で得られた量・質的限定に一致させて P を時間軸に定位すると述べている。

さらに、Franckel (1997) では、第二の操作について踏み込んだ記述をしている。この論考では、RE の動詞への付加は、質的限定が定まっていない不安定な位置から、質的限定が明確で、安定した参照位置 (position de référence) への移行を示すと述べられている。この場合の位置 (position) とは、状態、局面、状況、位置付けなどを総称したものである。そして、質的限定とは、P の時間軸への定位とは独立してなされるもので、「起源」、「規範」、「限度」、「既知の事柄」といった様々な要素に照らして定められる。また、安定した位置とは、文脈によって「内部」、「良い」、「通常」、「既知」、「限定された」、「安定した」、「顕在化」といった解釈が与えられる。このような Franckel の指摘をまとめると、以下のような点を踏まえる場合に、動詞に RE が付加されるようである：

- 1) RE-P を実現しようとする時点、つまり出発点での主体または対象の位置は不安定なものである。
- 2) 参照位置は質的限定が明確で安定したものである。安定とは、「起源」、「規範」、「限度」、「既知の事柄」といった要素に照らして、「内部」、「良い」、「通常」、「既知」、「限定された」、「安定した」、「顕在化」のように

文脈によって様々に解釈される。

- 3) 出発点と参照位置との間に乖離がある。
- 4) 出発点から参照位置へ移行し、出発点と参照位置との間の乖離を埋めることを述べようとする際に RE を付加する。

冒頭で示した (2) の *relever* と *remettre* の RE について、Franckel の指摘を適用すると、次のように説明できるだろう。この例では、「防寒」や「荷物の運搬」が目的とされている。そのため、出発点で認められる対象の位置「襟が折れたままであること」や「荷物が主体の手元にあること」は適切な位置ではない。目的の達成にしかるべき位置、つまり参照位置での対象の位置は「襟が立っていること」であり「荷物がポーターの手元にあること」である。このように、対象の位置について、出発点と参照位置の間には乖離がある。そして、襟を立てることやポーターの手元に荷物を手渡すことでそうした乖離を埋めることができる。以上のような経緯を踏まえて事行を実現することを表しているため、RE を付加するのである。

次の第2章では、様々な RE-P を考察することにより、Franckel の指摘の妥当性を検証しつつ、より詳細な RE の本質機能について検討する。

2. 事例研究

以下では、現代フランス語で使用頻度が高い動詞を考察の対象とする⁽³⁾。特に RE が付加される元の動詞との競合関係の認められる動詞 *relire*, *repousser*, *retrouver* の使用条件を考察し⁽⁴⁾、各動詞に通底する RE の本質的機能を探る。

2. 1. *relire*

まず、辞書や先行研究の記述の中で RE が反復を表すものとして挙げられている *relire* を考察する。

事例を観察すると、*relire* は以下の状況・文脈で多く用いられている。まず、

気に入ったものを何度も読み返すという場合である：

- (3) (皇太子の婚約発表の記事を読んで)

Hana lut et **relut** l'article, sincèrement heureuse du bonheur de la famille impériale. (ARIYOSHI, S. *Les Dames de Kimoto*)

次に、何らかの目的で対象を読み返すという場合である。例えば、文意を十分に理解するために読み返す場合が挙げられる：

- (4) Je **relus** sa lettre quatre fois, mais je ne compris pas très bien ce qu'elle voulait me dire. Que diable pouvait signifier cette lettre?

(MURAKAMI, H. *La Ballade de l'impossible*)

以上の状況・文脈では、最初に読んだ段階では、主体は読書量が不十分であると判断している。(3)のように、気に入ったものは何度読んでも飽き足らないものである。そして、(4)に関しては、最初に読んだ段階では、手紙の内容が理解できていない。そのような状態から、十分に満足したり、文意を理解するといった目的を達成するために対象を読み返すことを述べる場合は **relire** を用いる。

さらに、次の例のように、書いたものを点検するために読み返す場合にも **relire** が用いられる：

- (5) a. Le propriétaire d'un zoo écrit à un fournisseur en Afrique : «Cher monsieur, veuillez me faire expédier deux chacals, s'il vous plaît.» Il **relit** sa lettre, il la déchire et il en écrit une autre : «Cher monsieur, veuillez me faire expédier deux chacaux, s'il vous plaît» Il **relit** sa lettre, (. . .). (*Dic Humour*)

- b. Pour éviter le palais de justice, les éditeurs se montrent de plus en plus prudents, faisant **relire** quasi systématiquement par des avocats les ouvrages avant publication, qu'il s'agisse du dernier roman de Christine Angot – Pourquoi le Brésil? (*Le Monde*, 1/12/2003)

一通り書いただけの手紙や原稿は、推敲すべき点があったり、訂正すべき点があったりする。つまり、その手紙や原稿は、相手に送ったり、出版したりす

るためには十分な質に達していない。そうした状態から、送付や出版に十分な質にするために読み返すことを述べる場合に *relire* を用いるのである。

このように、*relire* を用いる場合、出発点では、主体は読書量が不十分であると判断したり、対象が何らかの目的のために十分な質に達していないと判断したりしている。そうした不安定な状態から、読書量が十分または対象の質が十分な安定した状態へ達するために読むことを述べることから *lire* に RE を付加するのである。

2. 2. repousser

repousser の対象は、主に「具体物」、「人・集団」、「提案・要求・考え」といった要素である。

対象が具体物である場合、押しやる場所が対象の元の場所である場合と元の場所とは別の場所である場合がある。まず前者の例として (6) の例が挙げられる。この例では、立ち上がる際に後ろへやった椅子を元のテーブルの下に押し戻すことが述べられている：

(6) Il s'est levé. (...) Il **a repoussé** sa chaise *sous* la table.

(GALLAY, C. 2008, *Les Déferlantes*)

次に後者の例として、対象を元の場所とは別の場所押しやる場合を見てみよう。以下の例では、相手をしっかりと抱きしめるために帽子を後ろに押しやること (7a)、部屋を寝室に変えるためにテーブルを押しよけること (7b) が述べられている：

(7) a. il **repoussa** son chapeau de cow-boy pour l'enlacer plus étroitement.

(HAMILTON, L.-K. *Anita Blake*)

b. Chaque soir, cette famille **repousse** quelques tables du restaurant pour transformer l'arrière-salle en dortoir.

(LEVY, M. 2009, *La première nuit*)

このように、何らかの目的を達成するために対象を押しやったり、押しよけたりすることを述べる場合にも *repousser* を用いるのである。

ところで、元の位置に押し戻すことにより、受け取りの拒否を表明することがある。*repousser* を用いる場合、対象を相手が主体に差し出したという前提がある。主体に差し出された対象を主体が再び相手に押し戻すのであるから、拒否といった含みを伴うのである⁽⁵⁾：

- (8) (. . .), six billets de sa liasse, qu'il tendit au vendeur. Le vendeur les **re-poussa** violemment, la mine outrée, gesticulant pour dire qu'il ne pouvait accepter une telle offre, (. . .). (TOUSSAINT, J-P. 2005, *Fuir*)

次に、対象が「人・集団」、「提案・要求・考え」を見てみよう。対象である人物は、主体にとって邪魔な存在あるいは脅威となる存在であるという特徴を持つ。実際、主体の行動を妨げる相手を押しのける場面で *repousser* が多く用いられ、*ennemi* のような主体にとって脅威となるものが対象として多く用いられている：

- (9) a. Le fidèle s'engouffre derrière moi, m'attrape par l'épaule ; je le **repousse** et fais face à l'imam (. . .). (KHADRA, Y. 2005, *L'attentat*)
 b. Ils prirent la tête des armées de tous les royaumes et **repoussèrent** l'ennemi jusqu'à la mer. (ROBILLARD, A. *Les chevaliers D'émeraude*)

そして、考えや思いが対象である場合についても、その考えや思いは否定的な価値を持つという特徴が認められる：

- (10) a. Depuis le début je **repoussai** l'idée terrible que le tueur pourrait être un policier. (KING, S. 2009, *Duma Key*)
 b. Pendant quelques instants, Arnie espéra vaguement qu'ils ne trouveraient pas la cachette, mais il **repoussa** cette pensée enfantine.

(KING, S. 1983, *Christine*)

いずれの例においても、「元の位置に戻すこと」、「受け取りの拒否」、「主体の精神的安定」やその他の目的を達成するためには、出発点での対象の位置は適切なものではない。つまり、「元の位置に戻すこと」を目的とする例に関しては、出発点での対象は、元の場所とは異なる場所にある。また「受け取りの

拒否」や「主体の精神的安定」を目的とする例に関しては、出発点では対象は主体の側に位置しており、受け取りの拒否の表明や、主体の精神的安定のためには不適切な場所にある。つまり、「元の位置に戻す」ためには、対象は元の場所にあるべきであり、「受け取りの拒否」を表明するためには、対象は主体の側ではなく相手側にあるべきである。そして、「主体の精神的安定」のためには、邪魔または脅威である対象や不安を与える対象は主体の側ではなく、主体の外にある必要がある。

このように、出発点での不適切な位置から、目的達成のために対象をしかるべき位置に押しやることを述べるのであるから、RE を *pousser* に付加するのである。

2. 3. retrouver

以下では、多くの用法がある中で、一見すると、従来の RE の説明とは結びつかない *se retrouver* を考察の対象とする。

「元の場所に再びいること」や「元の状態に再びなること」を述べる他に、話題にする場所・状態が「元の場所・状態」でない場合であっても *se retrouver* を用いることがある：

(11) Soudain, ils *se retrouvèrent* bloqués par une lourde porte en bois.

(CHATTAM, M. 2008, *L'Alliance des Trois*)

このような *se retrouver* が用いられる状況・文脈について、小熊 (1991) は次のように述べている：

この種の *se retrouver* に共通する特徴は、「突然」そうなった感じがすること (Je ne sais pas pourquoi, mais . . . /comme par hasard) である。(. . .) そういう状態になったという状態変化と、その変化に対して話者の抱くある種の感慨が、どうやらこの種の *se retrouver* の使用条件になるらしい。

(小熊 1991: 129)

確かに、実例を観察すると、突然であることを表す表現 *soudain*, *soudaine*-

ment などと共に、驚きや戸惑いといった感情を抱いていることを表す文脈で *se retrouver* が多く用いられていることが確認できる。しかし、突発性や「話者の抱くある種の感慨」は *se retrouver* を用いる際の必須条件ではなく、表現効果である。例えば、次の例では、女性がウェイトレスに突然なったことを述べているのではなく、女優になることを夢見てアメリカへやって来たはずの女性が、実際はウェイトレスとして働いている現状を述べている：

- (12) *Décidément, quoi qu'elle entreprenne, elle n'arrivait jamais à être à la hauteur de ses ambitions. Elle voulait être une star de cinéma et elle se retrouvait serveuse* (. . .). (Musso, G. 2005, *Sauve-moi*)

se retrouver を用いる際に重要な点は、主体のあり方について、事実とは異なるあり方を思い描いていた主体が、実際の正しい自身のあり方を再認識したことを表しているという点である。例えば、予想外の事態に立ち会ったことを述べる場合が挙げられる：

- (13) a. *Je devais commencer avec la CFA 2 et, au bout d'une semaine, je me suis retrouvé avec la L1*, raconte-t-il. Roland Gransart comptait sur moi. (*France Football*, 11/5/2012)
- b. *A la suite d'un héritage, en décembre 2003, Violette C., 34 ans, fonctionnaire au ministère de la santé, se retrouve avec un peu plus de 20 000 euros de liquidités.* (*Le Monde*, 19/1/2004)

いずれの例においても、発話者または主体の当初の見通しとは異なり、実際に立ち会った事態は予想に反する事態である。(13 a) では、発話者は CFA 2 (=サッカーリーグ五部) から始めるものと考えていた。しかし、突如、最高位のリーグ一部でプレーすることになる。そして、(13 b) では、遺産相続により思いがけず 2 万ユーロ強のお金が転がりこんできたことを述べている。

そして、不測の事態に立ち会ったことを述べている場合にも *se retrouver* が用いられる。以下の例では、勤続年数 25 年にも関わらず、解雇を言い渡され (14 a)、行きずりの恋で妊娠してしまったことが述べられている (14 b)：

- (14) a. Il **se retrouve** au chômage après vingt-cinq ans d'ancienneté.

(*Le Monde*, 6/4/1999)

- b. A vingt ans, elle avait rencontré Vittorio Del Amico, un ouvrier du bâtiment qui travaillait sur les chantiers du Lincoln Center. Il était beau parleur et avait un sourire enjôleur. Au bout de quelques mois, elle **s'était retrouvée enceinte** et ils avaient décidé de se marier. Mais au fil du temps, Vittorio s'était révélé être un homme violent, infidèle et peu responsable qui avait fini par quitter son foyer sans laisser d'adresse.

(Musso, G. 2004, *Et après . . .*)

このように、事実とは異なるあり方を思い描いていた主体が、実際の正しい自身のあり方を再認識したことを述べる場合は **se retrouver** を用いる。そのことから、突発性を表す表現と親和性が高く、驚きや戸惑いまたは失望といった感情が表現されるのだろう⁽⁶⁾。

そして、**se retrouver** を用いる場合には、次のような認知的変化が起こっている。まず、出発点では主体は自身のあり方について、事実とは異なるあり方を思い浮かべており、実際にどうであるかを正確に認識していない。しかし、何らかの事態に立ち会うことで、自身のあり方について正確に認識する。このように、自身のあり方について、事実とは異なる認識をしている不安定な状態から、正確に認識している安定した状態へと移行したことを述べるのであるから RE を **trouver** に付加するのである。

2. 4. まとめ

relire, **repousser**, **se retrouver** の使用条件を明らかにすることで、発話者が RE を付加する際に以下のような点を踏まえている確認できた。

- 1) 対象に対する行為量や対象のあり方そして主体の認知状態に関して、出発点と参照位置との間で乖離がある。
- 2) 出発点では、目的達成のためには行為量が不十分であったり、対象のあ

り方が不適格であったりする。さらに *se retrouver* については、主体が自身のあり方について事実とは異なるあり方を思い浮かべており、実際にどうであるかを正確に認識していない。

- 3) 参照位置では、目的達成のために行為量が十分であり、対象はしかるべきあり方にある。または、主体が自身のあり方を正確に認識している。
- 4) 出発点の不安定な状態から参照位置での安定した状態へ移行させることまたは移行したことを述べる場合に RE を付加する。

3. おわりに

本研究では、従来なされてきた主張に反して、「反復」によっては説明できない RE-P を主に考察の対象とし、RE の本質的機能の解明を試みた。そして、Franckel の指摘や事例研究から、RE の本質的機能は、何らかの目的に照らして、適切でない不安定な状態から、しかるべき安定した状態への移行を表すことであることを見た。

今後の課題として、まず、*reconnaître*, *redouter*, *ressentir* など認知動詞についての記述を試みたい。従来の研究では、物理的な動きを表す動詞を中心に考察がなされ、認知動詞についての記述は十分になされていない。今回の研究で認識に関わる動詞として *se retrouver* を取り上げたが、上に挙げた動詞も網羅した一元的な RE の機能を明らかにしたい。

注

- (1) *re*, *r*, *ré* を総括し、以下 RE と記す。
- (2) 例えば、Amiot (2002), Apothéloz (2005) が挙げられる。他の仮説として、Jalenques (2001, 2002) は RE の本質的機能が「変更 (modification)」であると述べている。RE とは第一段階 P1 によって設定された状況が第二段階 P2 によって変更されることを表すものであると指摘している。P1 とは P2 に先行する何らかの動詞が表す事行であり、P2 とは RE が付加される動詞の表す事行である。
- (3) eduscol.education.fr/~liste-des-mots-classee-par-frequence を参照した。以下の動詞が挙げられる：*reprendre*, *revenir*, *reconnaître*, *retrouver*, *rappelez*, *rentrer*, *remettre*,

représenter, retenir, remarquer, retirer, reposer, revoir, remonter, rejoindre, ramener, recommencer, rapporter, repousser, rejeter, rassurer, retomber

- (4) 映画のシナリオ, 演劇の脚本, 小説, 新聞記事を使用した。
- (5) 単に対象を押すことを述べる *pousser* は *repousser* のような前提はなく, 主体の側から主体の外への一方向の動きしか表さない。文脈によっては受け取りの促しといった意味につながることもある :
- (i) Je suis désolée de vous laisser attendre ainsi ; il va bientôt revenir, dit-elle en versant du thé dont elle *pousse une tasse* vers Meitei.
(S. NATSUME, *Je suis un chat*)
- (ii) Mange, dit la Sœur de l'Obscurité en *poussant l'assiette* vers lui.
(GOODLIND T., *Épée de vérité*)
- (6) 事実とは異なるあり方を思い浮かべていたことを考慮せず, 主体の実際のあり方のみを述べる際には, *se trouver* を用いる :
- (i) A la suite d'un accident du travail, *je me suis trouvé sans emploi*, avec seulement le RMI pour vivre. (*Le Progrès*, 10/4/2009)
- (ii) Elle commence à faire du yoga avec Thiers Yoga, deux ans plus tard, lorsqu'*elle se trouve enceinte*. (*La Montagne*, 28/4/2010)
- (iii) Être entourée par la mer qui fredonnait un doux murmure fut le sommet de la jouissance pour Roxane. Tout d'un coup, elle *se trouva sous l'eau* ; elle n'avait plus pied. (DJAVANN, C. 2006, *Comment peut-on être française?*)

主要参考文献

- AMIOT, D. (2002), "Re-, préfixe aspectuel", *Cahiers Chronos* 10, Rodopi : 1–20.
- APOTHÉLOZ, D. (2005), "RE- et les différentes manifestations de l'itérativité", *Pratiques* 125 /126 : 48–71.
- FRANCKEL, J.-J. (1989), *Études de quelques marqueurs aspectuels du français*, Droz.
- FRANCKEL, J.-J. (1997), "Approche de l'identité d'un préverbe à travers l'analyse des variations sémantiques des unités préverbes", *French Language Studies* 7 : 47–68.
- JALENQUES, P. (2001), "Quand la diachronie renvoie à la synchronie : étude des emplois idiomatiques du préfixe re- en français (*renier, remarquer, regarder, etc.*)", *Recherches linguistiques de Vincennes* 30 : 39–61.
- JALENQUES, P. (2002), "Étude sémantique du préfixe RE en français contemporain : à propos de plusieurs débats actuels en morphologie dérivationnelle", *Langue française* 133 : 74–90.
- MASCHERIN, L. (2007), *Analyse morphosémantique de l'aspectuo-temporalité en français*. - Le cas du préfixe RE-, thèse de doctorat, Université de Nancy 2, ATILF.

小熊和郎（1991）「接頭辞 re-と発話操作」『西南学院大学フランス語フランス文学論集』27（西南学院大学），111-138.

山本香理（2012）「接頭辞 RE の機能－先行研究の概観と今後の課題－」『人文論究』62-2（関西学院大学），161-179.

Grand Larousse de la langue française

Le Grand Robert de la langue française

Le Robert Brio

白水社ラルース仏和辞典

（文学部非常勤講師）